

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人河合塾学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養課程	英米語学科	夜・通信	270 時間	160 時間	
	国際エアライン学科	夜・通信	270 時間	160 時間	
	グローバル学科 英語系専攻	夜・通信	270 時間	240 時間	
	グローバル学科 エアライン フライトアテンダント専攻・グランドスタッフ専攻	夜・通信	270 時間	240 時間	
	グローバル学科 ホテル系専攻	夜・通信	390 時間	240 時間	
	国際教養学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
商業実務課程	国際ホテル学科	夜・通信	390 時間	160 時間	
(備考) グローバル学科英語系専攻とは、総合英語専攻/国際ビジネス専攻/英語＋アジア言語専攻を指す。グローバル学科ホテル系専攻とは、国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人 河合塾学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

「大学等の設置者の理事名簿」 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	2023年6月4日～ 2025年6月3日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員	2023年6月4日～ 2025年6月3日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人河合塾学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) ・授業計画書(シラバス)の作成 トライデント全校共通の教育理念のもと策定された本校の教育目標、教育方針に基づき、全学科、学科長・常勤講師を中心に、業界ニーズを反映したカリキュラムの立案・編成に取り組んでいる。まずカリキュラム編成の大綱と具体的な方針を決定したあと、各授業担当講師と協議し成案を得たうえで、授業計画に落とし具体的授業展開に至るプロセスとしている。 講義計画書(シラバス)は、全学科とも、年度・学期ごとに全履修教科について作成している。シラバスには、科目名・担当講師・科目のねらい・教科書・教材・授業概要・到達目標【専門知識スキル・社会人基礎力】・備考【受講ルール・評価の観点・その他・評価項目(評価の方法)】・コマごとのテーマ・内容(詳細)・取得目標・ターゲット社会人基礎力・授業運営方法・持参物等・授業外学習・宿題・提出課題等・重要用語・キーワード(任意)などを記載している。 ・授業計画書(シラバス)の公表に係る取組 学生には、学生ポータルサイトから確認できるようになっている。またホームページ内の学校紹介・学校公開資料内にて閲覧可能としている。 各コース担当教員には、所定の場所にファイル保管し閲覧できるようにしている。 シラバスの利用方法は、各学科長・教務担当については、授業構想の確認と授業の進捗状況に使用している。また、学生については、学習計画や各教科の意味・カリキュラム上の位置づけなどへの理解、持参物の確認に使用している。 シラバスの公開時期は、各学期初めのオリエンテーション時より閲覧可能としている。	
授業計画書の公表方法	学生ポータルサイト、講師室、本校ホームページ https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の4段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 (1) 必要出席率（80%）を満たしていること。 (2) 授業参加態度が良好であること。 (3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 (4) 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 成績結果は、学生へ年2回通知している。評価については相対評価として、評価配分に関してはあらかじめ提示し、依頼している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPA（Grade Point Average）の計算方法 計算式：(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0 GPAの指標を設定し、本校ホームページ上の学校紹介・学校公開資料内に公表している。成績の分布資料も作成し把握している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧及び、ホームページにて公表 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 進級・卒業の条件 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34単位、2年次・卒業次 27単位 (2) 進級・卒業認定会議で承認されること。 (3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧及び、ホームページにて公表 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校
設置者名	学校法人河合塾学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	2022 年度学校法人河合塾学園事業報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
収支計算書又は損益計算書	2022 年度学校法人河合塾学園事業報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
財産目録	2022 年度学校法人河合塾学園事業報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
事業報告書	2022 年度学校法人河合塾学園事業報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html
監事による監査報告（書）	2022 年度学校法人河合塾学園事業報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	英米語学科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼間	1950 単位時間	510 単位時間	1230 単位時間	210 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			1950 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
160 人		110 人	1 人	11 人		9 人		20 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。 「多読・音読」という手法で実用英語を効果的に習得しうる取り組みを実践している。英語を多読・音読することにより英語表現方法や英語で考える力を徹底的に強化し、読んだ本のあらすじや感想、気に入った英語表現をレポートにまとめて提出することを義務付けている。さらに授業以外にも多読・音読が身につくように情報センターにおいて英語蔵書を9ランクの難易度に分けてわかりやすく表示し、学生が段階的に英書を読み進むことができる学習環境を整えている。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。

成績評価の基準・方法 (概要) 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 (1) 必要出席率(80%)を満たしていること。 (2) 授業参加態度が良好であること。 (3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A(優)、B(良)、C(可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。 (4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0
卒業・進級の認定基準 (概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1) 各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34単位、卒業次 27単位 (2) 進級・卒業認定会議で承認されること。 (3) 在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等 (概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
63 人 (100%)	2 人 (3.2%)	45 人 (71.4%)	16 人 (25.4%)
（主な就職、業界等） ドン・キホーテ、TBC グループ、トヨタエンタープライズ、名鉄グランドホテル、ホンダロジコム、羽田空港サービスグループ、日本トラフィックサービス 他			
（就職指導内容） 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
（主な学修成果（資格・検定等）） TOEIC、実用英語検定、観光英語検定、技能検定、など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
122 人	15 人	12.3%
（中途退学の主な理由） 学生生活への不適合、学習意欲低下、メンタル不調、経済的理由、進路変更、その他		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	国際エアライン学科		○	－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1950 単位時間	480 単位時間	1080 単位時間	390 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1950 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		36 人	3 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。 「ホスピタリティマインド」をコア概念として授業を展開している。英語力と必須の知識・技術の修得にとどまらず、エアライン業界での必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。
成績評価の基準・方法
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の4段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 - 必要出席率(80%)を満たしていること。 - 授業参加態度が良好であること。 - 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 - 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1 年次 34 単位、卒業次 27 単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各 3 回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週 1 回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24 人 (100%)	0 人 (0%)	24 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) スイスポーティングジャパン、韓進インターナショナルジャパン、ドリームスカイ名古屋、スカイマーク他			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOEIC、サービス接客技能検定、サービス介助士、救急法救急員、など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グローバル学科 英語系専攻	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2820 単位時間	600 単位時間	1320 単位時間	900 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2820 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		33 人	0 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。 「多読・音読」という手法で実用英語を効果的に習得しうる取り組みを実践している。英語を多読・音読することにより英語表現方法や英語で考える力を徹底的に強化し、読んだ本のあらすじや感想、気に入った英語表現をレポートにまとめて提出することを義務付けている。さらに授業以外にも多読・音読が身につくように情報センターにおいて英語蔵書を9ランクの難易度に分けてわかりやすく表示し、学生が段階的に英書を読み進むことができる学習環境を整えている。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 さらに2年次の4月から9カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。 * 2021 年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年 20 名、総定員数は 60 名。英語系専攻とは、総合英語専攻/国際ビジネス専攻/英語＋アジア言語専攻を指す。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A(優)、B(良)、C(可)、F(不可)」の4段階としている。科目によっては、「N」(認定)と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」(認定)となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 (1) 必要出席率(80%)を満たしていること。 (2) 授業参加態度が良好であること。 (3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A(優)、B(良)、C(可)」であること。科目によっては、「N」(認定)であること。 (4) 科目名「〇〇(検定)対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。	

(「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0
卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34単位、2年次・卒業次 27単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など(予定)			
(主な学修成果(資格・検定等)) TOEIC、実用英語検定、観光英語検定、技能検定、など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	6人	18.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グローバル学科 エアライン フライトアテンダント専攻・ エアライン グラウンドスタッフ専攻	○	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2820 単位時間	570 単位時間	1170 単位時間	1080 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2820 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		31 人	0 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。 「ホスピタリティマインド」をコア概念として授業を展開している。英語力と必須の知識・技術の修得にとどまらず、エアライン業界での必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 さらに 2 年次の 4 月から 9 カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。 ＊2021 年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年 20 名、総定員数は 60 名。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の 4 段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の 80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 - 必要出席率(80%)を満たしていること。 - 授業参加態度が良好であること。 - 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 - 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4 段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 （「認」は含まない） A=11 , B=7 , C=4 , F=0	

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34 単位、2年次・卒業次 27 単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各3回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など(予定)			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOEIC、サービス接遇技能検定、サービス介助士など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年6回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グローバル学科 ホテル系専攻	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2820 単位時間	990 単位時間	720 単位時間	1110 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2820 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		8 人	0 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 対人サービス能力およびホスピタリティマインド™に優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 「お客様を感動させるサービス」をコア概念として「ホスピタリティマインド」の授業を設置。必須の知識・技術の修得にとどまらず、ホテル実務に対応した「感動力」を持ったプロフェッショナルの育成に努めている。専門的な知識やスキル、語学力はもちろん、一流の接客に不可欠なホスピタリティマインドを身につけながらホテル業務全般を理解し、自主的に考え、行動できる人材を育成できるように実習中心のカリキュラムを設計している。専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 さらに2年次の4月から9カ月間、授業の一環として海外提携大学に留学し、学んできたことを実践し異文化を肌で感じることによって国際感覚の醸成につなげる。 ＊2021年度新設の学科。生徒定員数はグローバル学科全体で各学年20名、総定員数は60名。ホテル系専攻とは、国際ホテル専攻/海外ホテル専攻/テーマパーク・ホテル専攻/ホテルウェディング専攻を指す	
成績評価の基準・方法	
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の4段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 - 必要出席率(80%)を満たしていること。 - 授業参加態度が良好であること。 - 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 - 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 （「認」は含まない） A=11, B=7, C=4, F=0	

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34 単位、2年次・卒業次 27 単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各 3 回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など(予定)			
(主な学修成果（資格・検定等）) サービス接遇技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	3 人	37.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	国際教養学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1950 単位時間	630 単位時間	1140 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1950 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人 (2 年のみ)		2 人	0 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 大学編入希望者を対象とし、編入試験の肝となる英語と小論文を中心に配置。英語は経験豊富なベテラン講師陣が徹底的に試験対策を指導。小論文対策では教養や専門知識を高めることで論述力を養成している。就職活動に役立つ資格取得も目指せるようにカリキュラム設計している。 「多読・音読」という手法で実用英語を効果的に習得しうる取り組みを実践している。英語を多読・音読することにより英語表現方法や英語で考える力を徹底的に強化し、読んだ本のあらすじや感想、気に入った英語表現をレポートにまとめて提出することを義務付けている。さらに授業以外にも多読・音読が身につくように情報センターにおいて英語蔵書を9ランクの難易度に分けてわかりやすく表示し、学生が段階的に英書を読み進むことができる学習環境を整えている。従来の英語教育に加え、専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。 ＊2023 年度入学者より募集停止。現在 2 年生のみ在学している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の 4 段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の 80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 (1) 必要出席率(80%)を満たしていること。 (2) 授業参加態度が良好であること。 (3) 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 (4) 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4 段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 （「認」は含まない） A=11 , B=7 , C=4 , F=0	

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34 単位、卒業次 27 単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各 3 回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週1回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4 人 (100%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 大学編入先…京都外国語大学、金城学院大学、愛知学院大学			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
(主な学修成果（資格・検定等）) TOEIC、実用英語検定、観光英語検定、秘書技能検定、など			
(備考)（任意記載事項） 大学編入希望者 合格率 100%			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11 人	5 人	45.5%
(中途退学の主な理由) 精神疾患、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	国際ホテル学科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	1950 単位時間	900 単位時間	630 単位時間	420 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1950 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		52 人	5 人	11 人	9 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 対人サービス能力およびホスピタリティマインドに優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育を理論と実践を融合させ展開している。 「お客様を感動させるサービス」をコア概念として「ホスピタリティマインド」の授業を設置。必須の知識・技術の修得にとどまらず、ホテル実務に対応した「感動力」を持ったプロフェッショナルの育成に努めている。専門的な知識やスキル、語学力はもちろん、一流の接客に不可欠なホスピタリティマインドを身につけながらホテル業務全般を理解し、自主的に考え、行動できる人材を育成できるように実習中心のカリキュラムを設計している。専門科目を学びながら「社会人基礎力」が身に付けられる教育手法としてアクティブラーニングを積極的に取り入れ、成果を上げている。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 科目ごとに、期末試験結果・授業中に行われる小テスト結果・授業参加態度・出席状況・提出課題などで総合的に評価している。評価は原則、「A（優）、B（良）、C（可）、F（不可）」の4段階としている。科目によっては、「N」（認定）と評価されることもある。例えば、公欠を含んだ欠席数が開講数の半分以上になった科目は、単位評価できる場合でも「N」（認定）となる。 各学期、各科目において単位認定のために必要な出席率は全授業時限数の80%以上としている。出席率がこれに満たない科目は成績の善し悪しにかかわらず、単位取得不可としている。 以下の全条件を満たしている者に、各科目の所定単位数を認定している。 - 必要出席率(80%)を満たしていること。 - 授業参加態度が良好であること。 - 課題が提出され、小テストや期末試験の結果が基準点に達しており、成績評価が「A（優）、B（良）、C（可）」であること。科目によっては、「N」（認定）であること。 - 科目名「〇〇（検定）対策」は「公欠の扱い」事由で欠席した場合を除き、指定されたその日に検定を受験すること。 GPA(Grade Point Average)の計算方法 計算式:(成績評価数値×成績評価取得数×科目単位数)の合計÷総単位数=GPA 成績評価数値は「A・B・C・F」4段階で、それぞれは以下の数値で計算される。 (「認」は含まない) A=11, B=7, C=4, F=0	

卒業・進級の認定基準
(概要) 以下(1)～(3)の全ての条件を満たしていること。 (1)各年次において、進級・卒業必要単位数以上を取得していること。 1年次 34 単位、卒業次 27 単位 (2)進級・卒業認定会議で承認されること。 (3)在籍年次終了時まで指定した検定試験に合格もしくは指定点数以上を得点していること。
学修支援等
(概要) 常勤講師・教職員スタッフが各クラスの担任を担当し、個別サポートシステムとして、担任と相談しながら目標の設定や学習計画を立て、目標設定を目指す「パーソナル・プランニング」。進捗状況を確認しながらステップアップできるように前期、後期とも各 3 回以上の個人面談を実施して個別の相談や指導機会を設けている「個別学習サポート」。担任・講師・スタッフが希望業界までナビゲートする「個別就職・資格取得サポート」を柱に学習PDCAを実行している。 さらに毎週 1 回キャリアサポートを開催し、学生へのさまざまな連絡の他、学習の動機付け・就職活動に向けての意識向上・マナーをはじめとするさまざまな生活指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 帝国ホテル（大阪）、森ビルホスピタリティコーポレーション、ミリアルリゾートホテルズ、ホテル近鉄ユニバーサルシティ、HOTEL TIAD、ジェイアール東海ホテルズ、他			
(就職指導内容) 就職ガイダンス、企業研究、就職研究、書類添削指導、面接指導、求人企業斡旋、保護者との三者面談、就職対策授業、履歴書添削指導、面接練習など			
(主な学修成果（資格・検定等）) サービス接客技能検定、レストランサービス技能検定、ホテルビジネス実務検定、など			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
55 人	4 人	7,3%
(中途退学の主な理由) 家庭の事情		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による年 6 回以上の個別面談。保護者懇談会。臨床心理士による学生相談室の設置。学校独自の学費支援制度など。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
英米語	200,000 円	830,000 円	280,000 円	
国際エアライン	200,000 円	730,000 円	280,000 円	
グローバル	200,000 円	830,000 円	280,000 円	
国際教養	200,000 円	830,000 円	280,000 円	
国際ホテル	200,000 円	730,000 円	280,000 円	
修学支援（任意記載事項）				
特待生選抜制度、トライデント奨学生制度、トライデント同窓会奨学生制度、 トライデント海外留学奨学生(スカラシップ留学)制度、ホテル委託奨学生制度、河合塾 グループ在籍者対象減免制度、家族入学者減免制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2021 年度自己点検・自己評価報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する学校関係者評価を実施する。 年1回学校関係者評価委員会を実施し、情報共有、意見交換を行っている。 評価の活用方法としては委員よりいただいた意見を基に校内で会議を行い具体的な改善施策を検討し実行することとしている。 評価委員会の構成：委員の定数 4名以上、 委員の選出区分 企業、卒業生、高校教諭、地域		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
イッティージャパン株式会社	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	企業
愛知中小企業家同友会	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	企業
県立城北つばさ高等学校	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	高等学校教員
愛知県商店街振興組合連合会 名古屋市商店街振興組合連合会 瑞穂通商店街振興組合	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	地域
ソニー生命保険株式会社	2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 2021 年度学校関係者評価報告書 https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html (「2022 年度学校関係者評価報告書」に関しては、8 月に学校関係者評価委員会を開催のため9月末に公表予定)		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

その他学校情報

https://gaikokugo.trident.ac.jp/about_school/document.html